

◆今期間のポイント

＜主要じょう乱の概要＞

- 16日から17日にかけて、高気圧が本州付近を通過して日本の東へ移動する。
- 16日から18日にかけて、低気圧が中国東北区からオホーツク海へゆっくり進む。低気圧から前線が日本海にのびて南下し、18日には日本付近を通過する。
- 19日から20日にかけて、高気圧が朝鮮半島付近に留まり、本州南岸に前線がのびる。

＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 北日本日本海側、東日本日本海側では、17日から18日頃に前線の影響で大雨となるおそれがある。
- 東日本、西日本、沖縄・奄美では、気温が高くなり、最高気温が35度以上となる所もある。熱中症など健康管理に留意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

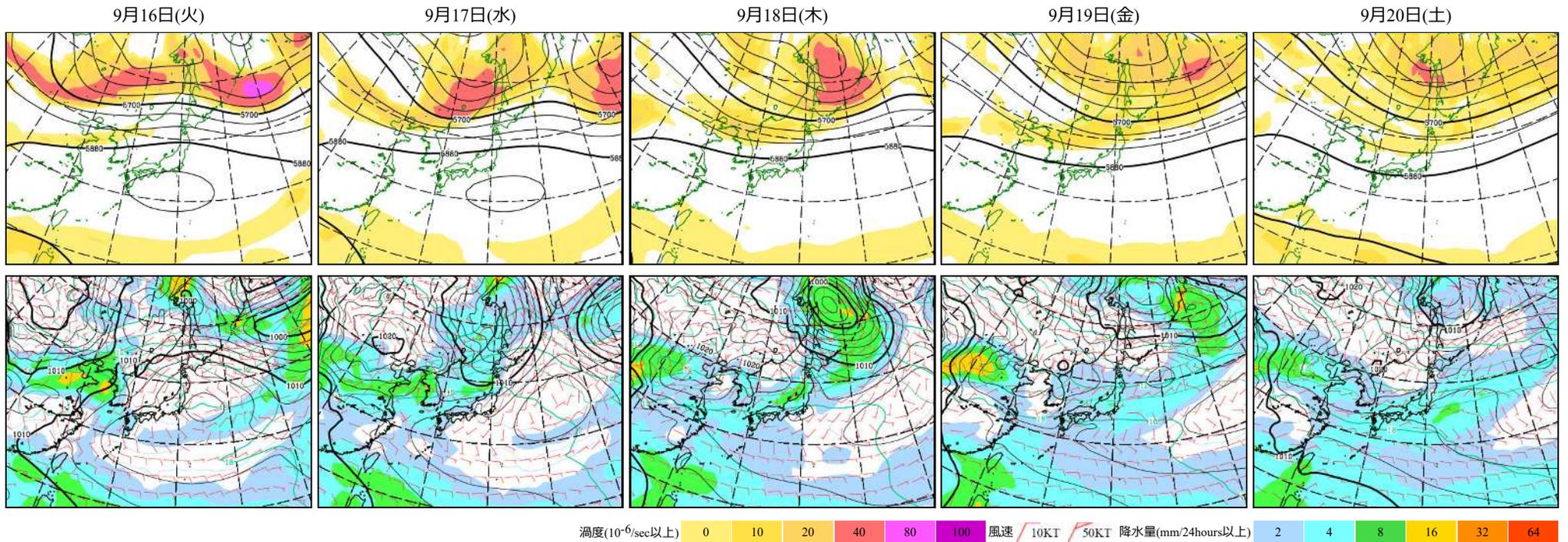
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

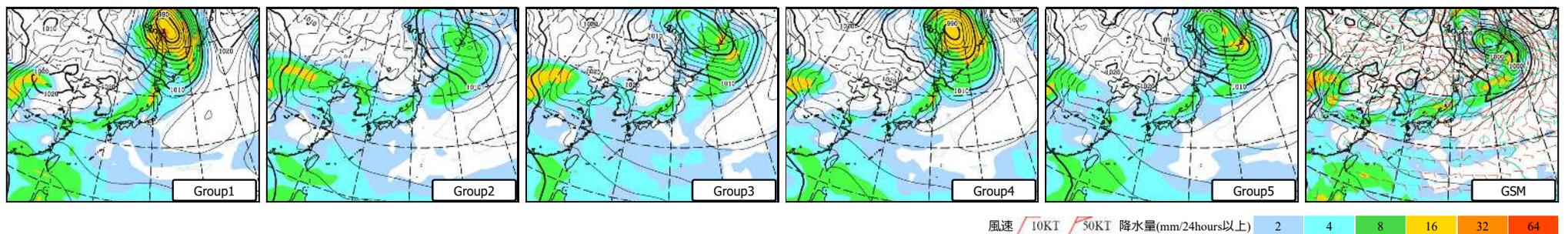


- 北日本は、曇りや雨の降る日が多いが、16日と19日は晴れる所がある。
- 東日本は、曇りや雨の降る日が多いが、16日は晴れる所がある。
- 西日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多いが、16日は晴れる所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月18日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、18日に北日本付近の気圧の谷が浅くなった。19日に日本の東に高気圧を予想するようになり、朝鮮半島付近の高気圧が弱くなった。
- 20日にはENSは日本付近でトラフを予想しているものの、トラフの位置についてはモデル間の差が大きい。一方で、17日から18日にかけて日本海から本州南岸に前線が南下し、その後本州南岸に留まる予想はモデル間で一致している。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。